

新刊

米山

三輪田米山生誕二百年記念特別展

三輪田米山×小池邦夫

in 坂の上の雲ミュージアム

米山は、下はえ  
を大切に  
石文や  
にあり、  
はる言葉  
シグマ  
二の好十口  
火の好十口  
二の好十口  
米山は、  
野外  
未来の  
人肉  
半渡  
たぬん  
もかいた  
白令の  
生マ  
いた、  
いかも  
し、  
米山、  
おから  
和甘  
解  
邦夫



ふるさと松山の

まちと人を思い、

書と酒をこよなく愛した

三輪田米山。

米山の書に感銘を受け、

米山顕彰を続ける

絵手紙創始者の

小池邦夫。

三輪田米山生誕二百年

の節目に、

松山が生んだ

「ことば」の表現者が

坂の上の雲ミュージアム

で共演します。

2021年9月28日(火)ー11月28日(日)

休館日：毎週月曜日(11月1日、22日は開館)

開館時間：9:00ー18:30(入館は18:00まで)

場 所：坂の上の雲ミュージアム 2階ホール

観 覧 料：無料

主 催：三輪田米山生誕二百年記念事業実行委員会  
(特別展担当：坂の上の雲ミュージアム)

共 催：愛媛新聞社

【記念講演】地域文化として見た米山

日時：2021年10月31日(日) 14:00ー15:30

坂の上の雲ミュージアム2階ホール／聴講無料／定員30名(当日先着順)

講師：三浦 和尚 氏

(三輪田米山生誕二百年記念事業実行委員会 委員長、愛媛大学俳句・書文化研究センターセンター長)

三輪田米山生誕二百年記念事業実行委員会

三輪田米山生誕二百年記念特別展  
**三輪田米山×小池邦夫**  
 in 坂の上の雲ミュージアム

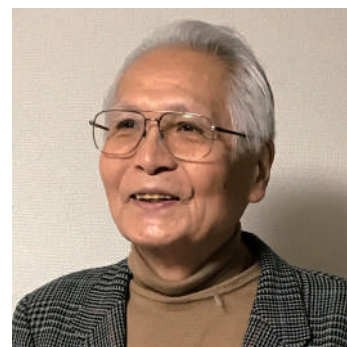
三輪田米山は、伊予松山で日尾八幡神社の神官の長男として生まれました。二十八歳で家督を継いだ米山は、神職として励みながら、子弟の教育に力を尽くしました。

米山は中国の古典に学び、研究と鍛錬を重ねて独自の書風を確立します。酒を愛し、酔うほどに魅力を増した米山の書は、時代を超えて多くの人の心を捉えました。

米山の筆跡は、神社の注連石や幟のぼりなど、『坂の上の雲』のまち松山の各所にのこされており、貴重な文化資源となっています。さらに、彼が幕末から明治期に書き続けた三百冊に及ぶ日記は、当時の松山を知るための重要な歴史資料です。

そのような米山に魅せられ、大きな影響を受けたのが、松山市出身の絵手紙作家、小池邦夫氏です。幼少期に米山の書に感銘を受け、自らも大学で書を専攻した小池氏は、各地での講演会等を通じて米山の書業を後世にのこす必要性を訴え、顕彰活動を続けています。

今回の特別展では、米山の足跡と作品、その顕彰を行う小池邦夫の活動などを紹介します。米山が松山のまちにのこした宝を、身近に感じてもらうきっかけとなれば幸いです。



こいけ くにお  
**小池 邦夫**

1941(昭和16)年、松山市出身。東京学芸大学書道科に学ぶ。1978年から1年間、雑誌『銀花』に6万枚の絵手紙をかき注目される。1985年に日本絵手紙協会を設立。絵手紙創始者として詩・書・画の三位一体の作品を確立し国際的に活躍。講演会や執筆活動を通じ、精力的な米山の顕彰を行う。2021(令和3)年、第69回愛媛新聞賞受賞。狛江市名誉市民。



米山書「萬年壽」(個人蔵)



みわだ べいざん  
**三輪田 米山**

1821(文政4)年、現在の松山市鷹子町、日尾八幡神社の神官三輪田清敏の長男として誕生。本名常貞。28歳で家督を継ぐ。王羲之をはじめとする書の古典に深く学び、独自の書風を作り上げた。松山市周辺の神社の注連石などに数多くの文字が刻まれる。また、1848(嘉永元)年から53年間にわたって日記を書き続けた。享年88。



米山日記 (愛媛大学図書館所蔵)



小池邦夫氏書簡「米山の石文について」(個人蔵)

主催：三輪田米山生誕二百年記念事業実行委員会  
 共催：愛媛新聞社

【お問い合わせ】

特別展担当：坂の上の雲ミュージアム  
 松山市一番町三丁目20番地 TEL:089-915-2601 FAX:089-915-3600  
 E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp

【連携事業】(新型コロナウイルスの感染状況により閉館の場合あり)

「米山生誕200年展」2021年4月26日(月)～10月23日(土) 愛媛大学ミュージアム  
 「生誕200年 三輪田米山展 -天真自在の書-」2021年10月2日(土)～11月30日(火) 愛媛県美術館

